

輸出事業計画

※申請者名：(株)大潟村あきたこまち生産者協会

品目：コメ及びコメ加工品

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・新しいコメ加工食品創出と販路拡大のため、コメピュール事業やグルテンフリー食品・アレルギー対応食品事業、非常食事業、甘酒事業、さらに2021年にパックご飯事業を立ち上げ、生産者の所得向上と農業経営の安定化を図ってきた。
- ・2016年に、大潟村が設立した大潟村農産物・加工品輸出促進協議会に参画し輸出事業に取り組んでいる。
- ・年に6～7回程海外の展示会・商談会に参加し、ジェトロや秋田県等のアドバイスを受けながら海外販路拡大に向けたプロモーション等を行ってきた。

【課題】

生産段階：農家の高齢化による後継者不足。

流通段階：商社を通すことで中間マージンが上乘せられ、現地での販売価格が高くなるほか、港を指定されるため国内輸送も大きな負担。

販売段階：輸出の拡大を図るためには、富裕層のほか中間層にもアプローチする必要があるが、現地での販売価格を下げなければならない。

2. 輸出事業計画の取組内容

生産段階：効率的な農業機械の活用のため、圃場を大規模化して作業中の旋回回数を減らすとともに、農地を集積して農業機械の移動を少なくする。また、人件費の削減のため、品種や栽培方法によって栽培適期の拡大をし農業機械の効率化を図ることや、施肥や防除・水管理にICTや農業機械等を有効活用し、スマート農業を2024年までに取り組む。

流通段階：これまで、秋田県内にはパックご飯の製造工場がなく、他県で委託製造していたが、2021年に(株)ジャパン・パックス秋田を設立し秋田県内（大潟村内）で製造できるようになったため、原材料の輸送コストと委託先へのコストが削減できた。このパックご飯製造工場の稼働にあたって、基本的にプライベートブランドでの提案とし、顧客ニーズに対応した商品を展開していくとともに、出荷のロットもトラック1台分あるいはコンテナ1基分の倍数とすることにより、輸送コストの削減に取り組む。

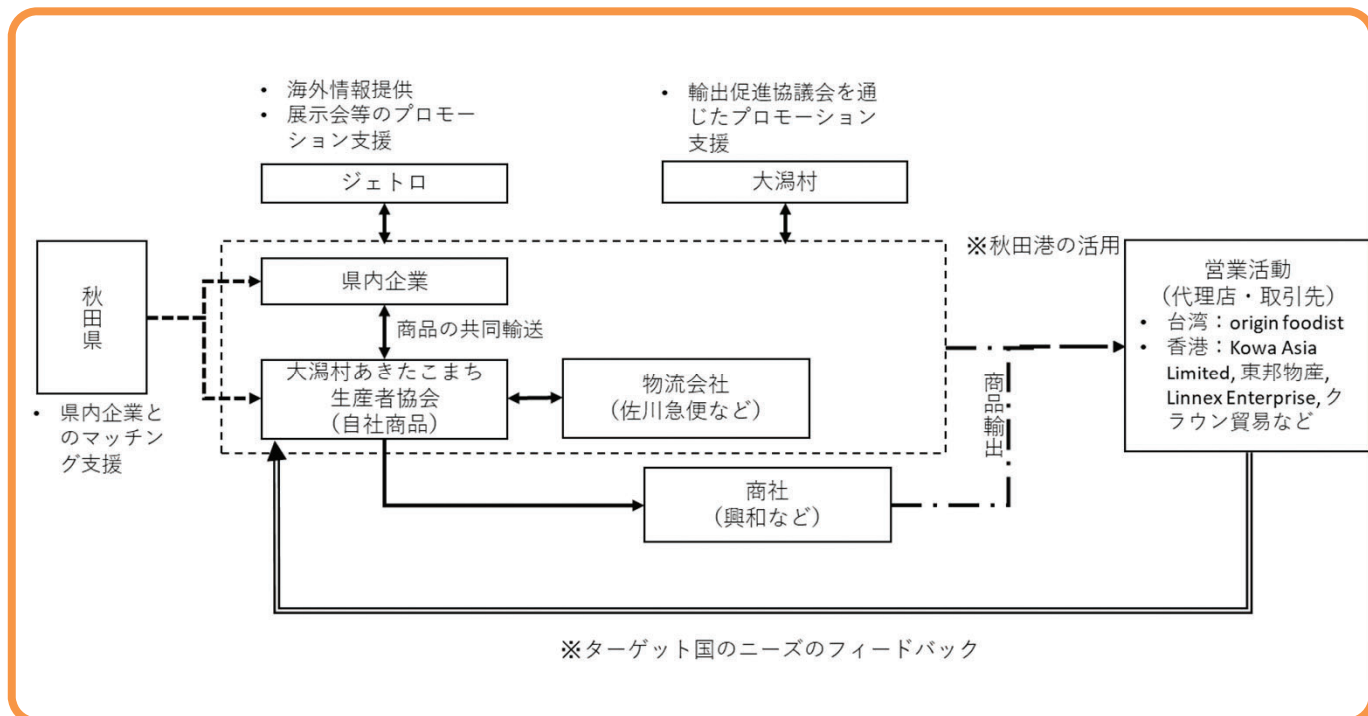
販売段階：物流会社との連携により、商社を介さず現地まで商品を運ぶ「海外産直」により中間コストを削減し、現地での販売価格を2～4割程度削減する。

輸出事業計画

※申請者名：(株)大潟村あきたこまち生産者協会

品目：コメ及びコメ加工品

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

品目	現状 (2021年度)	現状 輸出先	目標年 (2025年度)	目標年 輸出先
コメ	2,776千円 (6.3 t)	香港、台湾、米国、シンガポール、スイス、イスラエル	42,269千円 (100.0 t)	香港、台湾、米国、シンガポール、スイス、イスラエル
グルテンフリー食品	2,388千円 (2.3 t)	香港、台湾、中国、米国、シンガポール	59,971千円 (50.0 t)	香港、台湾、中国、米国、カナダ、シンガポール、オーストラリア
甘酒	2,464千円 (2.1 t)	香港、台湾	53,698千円 (50.0 t)	香港、台湾、中国、米国、シンガポール
パックご飯	3,082千円 (3.6 t)	台湾、中国、米国、シンガポール	100,000千円 (135.1 t)	香港、台湾、中国、米国、カナダ、シンガポール
合計	10,710千円 (14.3 t)	香港、台湾、米国、シンガポール、スイス、イスラエル、中国	255,938千円 (335.1 t)	香港、台湾、米国、カナダ、シンガポール、スイス、イスラエル、中国、オーストラリア

※ 輸出货量(t)は玄米換算の重量。